



発行所 会
 青 洞 宗 青 年 会
 〒105 東京都港区芝
 2-5-2 曹洞宗青年会内
 発行責任者 神野哲州
 TEL.03-454-5419F

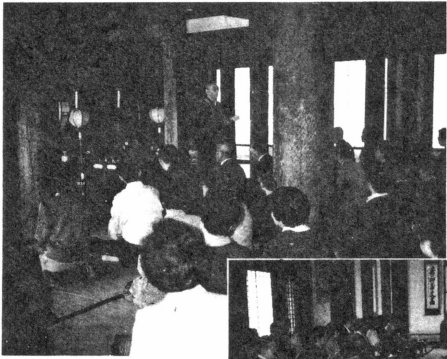
全曹青・なら・シルクロード博 関連行事

「坐・精進料理」を開催

「なら・シルクロード博」の開催されている奈良市で、元興寺を会場に「坐・精進料理」が十月一日〜十三日まで開催された。
 全曹青では、「ならシルクロード博」関連行事として、四月の干僧法要五月のミュージカル「アタック・シヤカ・ムニの誕生」の上演など、シルクロード文化が仏教文化であることをふまえた多彩な企画を練り、参画行事としてきた。この十月の「坐・精進料理」が「なら・シルクロード博」最後の関連行事となった。

「坐・精進料理」は、食事を禅修行の一つととらえ、良薬を施す行として各地の曹青諸師が参加し典座寮を運営した。

一日平均七十名の入場者があり二十三日間でのべ千六百名が精進料理を体験し、法話を聞き禅の世界にひたつた。



青年衆侶のエネルギーを結集しよう
 社会的価値ある活動をもじよう
 青年衆侶の自覚を促そう
 地域における活動の連携を深めよう

世界仏教会議から

世界に仏教救援センターを！

去る十一月十日より五日間にわたって北米ロサンゼルス西光寺で「第十六回世界仏教徒会議」が開催され全日本仏教青年会の代表として出席する榮譽に浴することができた。日本からも全日本仏教の大谷光真会長（西本願寺門主）を中心に百名を越す大代表団が参加され、宗務庁からも来馬部長が参加された。また大本山水戸寺の監院老僧も別に参加されていた。

全国曹洞宗青年会からは全日本仏教青年会の事務局長に就任している堀部明宏君、それに総合企画委員の島田代禅君と私の三名が出席することになったが、他に曹洞宗青年僧として福岡曹青会長の松崎静俊君と大阪から世界仏教青年会入道奉仕委員会議長の村山廣南師も出席された。

ロサンゼルス紀行

私達の出席した会議は同時開催の「第七回世界仏教青年連盟会議」で、参加国は二十二カ国となっている。
 その名はメッター
 今回参加の主目的は全日本仏教青年会

目次

1	ロサンゼルス紀行………
2	各地で大会を開催………
3	仏教ホスピスをめざして(四)………
4	花まつりカード普及(研修委員会)………

神野 哲州

今日仏教では緊急援助として二万ドルの提供を約束してきた。

今春、タイで研修会

今回参加して痛感したことは、この会議にはもって若い人出席が必要であるということである。会議終了間際になつてやはり私と同じ感想をもった人がいたのであろうか、今春タイで若い人を中心の研修会議開催が決つた。全曹青是非派遣せねばならないと考えている。

洪水のバン格拉デシュから

この会議中に特に関心を集めたのはバン格拉デシュからの報告であった。ただでさえ出たの多い国が六月の大洪水によって国土の四分の三が洪水のままたま。また、回教の国ではあるが仏教徒も多く、仏教寺院の経営する孤児院施設には二千人の子供が収容され救援を待っている写真も振つての報告であった。



破草鞋

本年も残り後僅で暮れようとして、喜ぶ哀れ、悲喜交々にも万民共に暮れ行く、自坊でも毎歳、大晦日に節分の豆まきをし、祝勝風経巻、檀徒に依る除夜の梵鐘撞きが始まる。あの梵鐘の音は一年の行いを反省させ、来る年の希望を新にさせる響でもあり、正に一年の最後を飾るに似ている。除夜の鐘の風習はインドにはなく中国の三跪九叩の礼をして新年を迎えるのころから始つたと云ふ。梵鐘の音の良し悪しは音色の美しさと余韻の長さではかた云うが、特に夕焼け空に聞く鐘の音は響きさへ覚える。

暗くなるのも気付かず、山河で遊びはうけて、自坊の梵鐘の音に驚いて帰つた幼い頃……
 夕焼け小焼けの日が来て、山のお寺の鐘が鳴る。お手をつないで皆かえつ。もうこんな童謡の光景は何処にもない。そもそも暗くなるまで時を忘れて遊びほうける児童もなければ、遊ぶ場所すらない。まして都会に夕焼け空もなければ、折角整った梵鐘を撞く寺院も少ないと云ふ。
 さて、その梵鐘の功徳であるが、古くは經典中に在る。ある国に暴君在り。その傍若無人にとりとう、千頭魚。なるもの悪夢に苦しむこととなる。しかし、近隣の寺院より伝わり響く鐘の音を耳にする時のみ、悪夢より逃れる事が出来た。以つて暴君羅漢に請ひ願ひ七日間梵鐘を撞き続けてもらいたるとその悪夢止むと在る。

又ある書中に、その妙なる音は廣大無辺に伝わり響き、晨を昏に十方世界の衆生を煩惱幽夢の世界より覚めさせ、千年來の法をも呼び興すとも記されている。
 法友諸兄、来る新年より衆生の為に功徳ある梵鐘を是非撞こうではなにか。
 自坊では晩鐘は木娘、昼鐘は妻、そして晩鐘は私が撞いでいることになつて許せ！ 檀徒には自分さう云う事にしておこ。

東北曹青

「大衆教化の接点を求めて」から「大衆教化のころみ」へ 第十二回 東北曹青山形大会 開催

今年で第十三回を迎えた東北曹青青年会（菊地豊宗会長）の大会が、去る十月十五日・十六日の二日間にわたり、山形曹青青年会（細谷邦憲会長）の主催で、「斬新な企画のもと山形厚生年金休暇センターを会場に開催された。テーマを、「大衆教化のころみ」宗教行事と現代音楽のハーモニー」といちづけて、山形曹青会員による山形地方に伝わる「万燈供養」と、若手の生んだシンセサイザー奏者「姫神」による「法要コンサート」の、「心を洗う静かなる時間」がメインの記念行事で、会場は二千三百余名の老若男女で埋め尽くされ、古今一体の宗教行事に酔いしれていた。

山形曹青二十周年記念式典併催

今回東北地方集会所を主管した山形曹青青年会は、今年で二十周年を迎え、記念事業として主管を担当したもので、マンネリ化のみられる地方集会所ではなく、実のある集会所ということで、実に二年以上の歳月をかけて企画開催された。当日は、山形市郊外に位置し街を一望でき、宿泊施設を始め体育館やグラウンドなどの諸設備を完備した厚生年金休暇センターを貸し切り、本館にて一時より受付が始まり、二時より開会式が執り行われた。開会式は、本尊上供が行なわれた後、菊地会長挨拶、山形実行委員長挨拶があり、引き続き山形曹青二十周年を記念して歴代会長に感謝状が贈呈された。続いて来賓の葦原宗務所長、神野全曹青会長の祝辞を賜った。

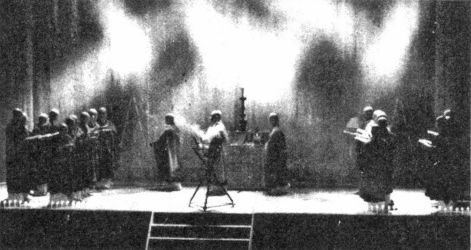
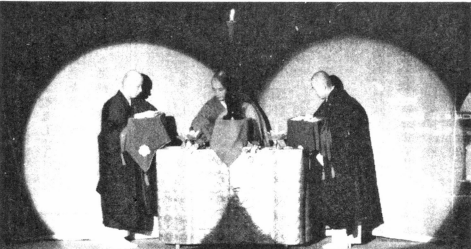
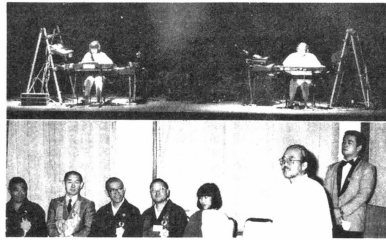
開会式の後、万燈供養のビデオ放映があり、内容や進退、差定等の説明があり、続いて山形市正覚寺住職菊田円順老師を講師に迎え、「万燈供養と教化」（貧者の一燈、富者の万燈」と題し基調講演が行なわれた。参加した会員諸兄は、山形に万燈供養有りといわれる曹洞宗では珍しい法要の真髄に聞き入り、熱心に研修を積んでいた。

企画・演出 全て曹青会員の手に

基調講演が終り、いよいよ陽も暮れ、場所を同センター内のスケート場に移し、メインの記念行事が行なわれた。記念行事の法要コンサート「心を洗う静かなる時間」ときは、「姫神」のシンセサイザーによる音楽の流れる中、スライドや活きることの大切さを訴えるナレーション、又、僧侶の礼佛、稚児の舞、そして、万燈供養をアレンジした僧侶の進退等が、華麗にもかつ荘厳に進められ素晴らしい宗教イベントであった。続いて懇親会が開催され、姫神や神野会長を開き、東北の各曹青会が一堂に集い、和やかに楽しい懇親会が開催された。

来年は秋田県開催

二日目は、予定していたソフトボールがグラウンドが前々日の雨のためあいにく不良で中止となり、朝食後閉会式から始められた。閉会式では、決議文が採択され、次期開催地に秋田県を決定し、格次が伝達され、来年秋田にて再度集うことを誓いあつて閉会した。



宮城県曹洞宗青年会 「結成二十周年」



伊達宮曹青会長

継続は力なり

研修・布教化と親睦を目的として結成された宮城県曹洞宗青年会（伊達広三会長）が今年で結成二十周年を迎えた。



「神のついで」から始まった活動はいろいろな障害を経て、一果一会場、長い時間をかけ会員を育成する方法、各県各教区一会場、また各寺一教化事業を十年サイクルで成果を見守る高城方式などを生みだした。

近年では世界情勢に目を向け、救援奉仕活動を展開し、他の団体と連携協力して「難民に古着を送る宮城県民の会」を結成し、曹洞宗ボランティア会支援として県内各地曹青会員の結果がなされ曹青活動の原動力となっている。

記念式典は九月二十八日、仙台市、東北電力ホールで行なわれ、無着成恭師の記念講演の後、青年会諸師により大般若祈禱法要が行なわれ一般参加者およそ九百名の、家内安全、諸災消除、諸縁吉祥、諸願成就が祈願され、全員に祈禱札が授けられた。また、合せて近くのデパートでは墨跡展が開催され多くの入場者が集まった。

法要の際にご本堂などで

曹洞宗日課経大全 修證義ミニ本

100冊未満
1冊につき
¥500

5冊購入
¥1,500

100冊以上の場合
¥480

10冊購入
¥1,100

100冊以上
1冊につき
¥50

50冊以上、高野山に寺院
高野山に寺院
¥7,000

別冊金剛任上げ真經(3冊セット)
¥7,000

別冊(巻心も入)任上げ真經(3冊セット)
¥8,000

●お申し込みは— (株)タイキ 〒538 大阪府鶴見区今津中3丁目9番6号
TEL (06) 969-7191 FAX (06) 969-7194

未来に想いを託して

奈良曹青インド古典舞踊の会



奈良曹青洞宗青年会
会長 富田 基房

奈良曹青(富田基房会)では、過去に「仏陀の国、インドの集い」がインド政府の協力により行なわれた。今年十月、「全曹青」なら、シルクロード博覧会行事、「坐・精進料理」が開催されたこともない。一日同会場、奈良市、元興寺において、再度、舞踊家、シヤクテイさん、を招き、「インド古典舞踊」の一端を催した。舞踊を通じてインド文化の一端に触れることも、未来に想いを託し、仏教の再生と今後の仏教の可能性を探った。

一日は「坐・精進料理」の初日でもある。たの会場は定員の百名を越す観客埋まり華やかなインド舞踊に見合った。

シヤクテイさんは一九五七年日本で生まれ、三才よりインド古典舞踊を学び十五才でデビュー、アトリーカ、コロンビア大学に留学、インド哲学を専攻した後、母ウァンタマラと共に

に舞踊団を結成、日の古典に題材をとった創作舞踊などに取組み、毎年、東京、京都の定期公演の他海外でも活発な公演活動を行っている。



佛教ホス。ピスをめざして(四)

中野 東輝

死に対してどのような対応の仕方があるかについて、名言名句を手がかりにさくろくしてみたいことがある。東西の名句をあつめてみたら次の五種類に分類できた。

(一)死すべき自分をさとする。

死神が来るほど確かなことはない。しかし彼が来る時ほど不確かなものはない。(ドイツのトクワジ)

聖より聖に二つする五十年(生きたる)まで恐怖をこえる。

あの世(世)詮索だててしようより今日の世(今)を極楽にせよ。

死の恐怖を味わうことは、その人がまだ生きていなければならない仕事をしつけないから。(武者小路実篤)

生に充実に心を静める。然るとき死静かに死の準備をなせ。(シェイクスピア)

裸に生れて来たに何不足
四生達観
うらを見せおてて見せ散るもみ

じ(良寛)

われに大力量あり。風吹かば即ち倒る。(四)おまかせとしての生死

父母に呼ばれてかりに客に來て心のこさす掃るふるさと

自分の意志はなくて生れて来たんだから、自分の意志はなくて死んでゆくのが正しいと思う。(丸谷才一)

婆婆の稼つて、力なくして終る時に、かの土はまいる(べきなり親鸞) これらを精神の態度がどのように形成されているかによってちがってくる

わが死、死という圧倒的恐怖の前には精神的あり方をどんなに説いても、臨牀的な問題解決にさすぐに結びつかない

そこで、死の受容のための臨牀的問題点を整理してみよう

(一)運命は自分で気づく。死という原理が自分にあることなるために、その原理を自分にあててゆく、それが病気を疑う段階である。したがって自分の病氣

は死に病ではないかと疑いはじめたら、病名告知を受け入れる準備ができたことになる。そして、次に自分で。悟る。のである。それは受け容れる。逆にその心の準備ができていない時に知ってしまふと事実と観念のギャップが大きいので、たいへんなショックをうける。するとあとの治療への努力がなくなり障害をうけることになる。

(二)愛するものを失い、いたみの体験のある人は死ぬ。大切なものを不条理に失なうことと喪失体験という。それは理性で納得しかねる出来ごとである。ところが自分が死ぬというのも不条理である。理性で納得できない。したがって自己の死を受容する訓練は愛するものを失った体験の中になされる。

(三)死者への愛と尊敬があつたら死ぬ。死が恐怖であるのは未知だからである。異質の世界と想うからである。ところが死者に愛するもの、尊敬する人がいたら恐怖はかな解消できる。したがってな

き父や母や祖母に遇えるという気持は死の恐怖をやわらげる。浄土真宗門徒の墓石に「俱舍一処」と書くのは死を受容するすばらしい智慧である。

(四)選択は自分でできる。入院や手術など自分の意志で選択したら、失敗して運命は受け入れられる。つまりピンチ・ウィルである。自分は手術したくないが、息子が嫁に連座して入院や手術をすると思ふの精神は不純である。

(五)感謝できる人は死を受容できる。感謝とは、謙虚である。同時に充足である。不条理な運命の前で人徳を尽した巨額の柔軟さと強さができる。

(六)信じた人は死を受容できる。信とは、愛や友情、禅・佛などの心の世界のすばらしさを知っていることであり、それにあがれ、それを支えにできていることである。同時に信じているという事は無条件の愛を知っていることである。無条件に私をゆるし、信じていてくれる人や佛をもっていることである。そうした死を受容する条件をもっていることがはつきりわかる尊い事例である。

(七)真剣で純粋になっていると死は受容できる。真剣で純粋に生きていられるから事実を受容できる。真剣でなくさせるものは、借金訴訟引越、嫁とりなどの家庭内の人事の四つである。これがあると「自己」の人生をどうもめる純粋さを失う。したがってこれらの問題があるときはまず解決するか、先くりにする方がよい。

(八)悲しみを共有してくれる家族があること。これは(六)でもいった無条件ということである。看護大学の調査で、看護婦になってはじめて死を看とつたときについて調べた。(A)こわかった人と(B)尊敬な気持ちになった人とある。その人がはおそく(四)の人は患者と心で人格の交わりができていて、つまり愛が成立している人である。(B)は心がつながっていない人である。家族でも心がつながっていない人は安らぎがあり、断絶トラウマがある人と恐怖をひきおこす。

(九)考える力をもつと受容できる。(十)おまかせできる人は受容できる。以上のようなことが考えられる。竹下昭母さんの病名告知から死までの数十日間の日記が再刊された。(死の宣告をうけて、光雲社)

佛教の人間像と、以上にのべて来た死を受容する条件をもっていることがはつきりわかる尊い事例である。

取扱主品目……紫檀製品・注文仏像・各宗念珠・仏具全般



株式会社 宗像商会

本手打盤子(一枚仕上げ)

本楠木魚 特別奉仕中!!

「全曹青企画 仏足跡 発売中」

- 盛岡支店 〒020-01 岩手県盛岡市みたけ5丁目10番48号 ☎ 0196(41)3955(代)
- 本店 〒189 東京都東村山市富士見3丁目2番17号 ☎ 0423(95)8505(代)
- 函館支店 〒040 北海道函館市亀田町19番18号 ☎ 0138(43)8551(代)
- 松山支店 〒790 愛媛県松山市和泉北1丁目5番20号 ☎ 0899(47)2013(代)

花祭りカードの普及を目指して

研修委員長 桂川 道雄

皆様ご承知のように、全国曹洞宗青年会主催による「花祭り」の普及が盛んなうちに終了しました。諸準備の期間中、果たして東大寺に千名の僧侶が結集するのだろうか、一休の不安も有りました。一報に既成仏教教団は、足腰が弱いと批判を浴び、私達もそう思っていました。が、目標の千名をはるかにしのぐ千七百名の僧侶が集いました。

軌尊の降誕を祝うために、全国各地から宗派を超えて参集したことは大変意義がありました。しかし、現実には動かしなれないに持っているのだ、と心強く思いました。

結果よりも過程を大切にしよう
カードの普及が決定したら「花祭りカード」の写真を決めればよい。現代の風潮は、結果さえ良ければその過程をあまり問題としないようです。この生きざまは社会問題として多方面にわたり問題が吹きだしています。我々青年僧はこの生きざまに警鐘を鳴らさなければなりません。



さむいなか
この笑顔

戦後の民衆運動の高まりと共に、地方に存在する木喰仏が世に紹介されました。その中でも最高傑作が清源寺の羅漢像が十六体保存されていて、絵で微笑みの仏像でありました。この微笑みはすべてを脱却した境地であり、木喰仏が円空仏と並ぶ称せられる所以でもあります。人間関係に疲れ果てている現代の私達にこそ、この微笑みは大切なものであるに違いありません。

お寺に人生相談に行ったら、えらく迷惑がらる。うちはナマもは扱っていませんから。と云う方丈様の返事は、仏教とは何か、僧侶とは何かと叫びたくありません。

微笑みの木喰仏

東大寺で仏教興隆と世界平和が願望さ

「花祭りカード」を通して人々に思い出してもらいたい「微笑み」を同封します。

五十単位で申し込みください。送料実費、ハガキと同時に振込み用紙を同封します。

等9回 禅文化学林 「ネパール・タイ研修の旅」 日程変更のお知らせ

啓時下益々清寒のことお慶び申し上げます。全国曹洞宗青年会主催の第九回禅文化学林「ネパール・タイ研修の旅」を二案内いたしました。この度利用のロイヤルネパール航空より突然のフライングスケジュール再編の通知を受け、研修日程の変更を儀なくされました。大まかには前半をタイ、後半をネパールとして研修内容を豊かにできました。タイ・パヤビーチについては割愛させていただきます。今回、所出大阪曹洞宗研修委員長に各県団長をお願いし、日本仏教寺刹の訪問

岐阜曹青 作製の理趣分経

今すぐ
誰にでも読める
大般若理趣分
(全行書き下し文)
●定価 四〇、〇〇〇円
送料込み
◆申し込み方法
必ずハガキにて申し込みください。
◆申し込み先
〒5200
滋賀県大津市長等一丁目四一二十三
曹青寺内 全曹青研修委員会

◆特長
●極上手渡し和紙三枚合せ
●奔金箔手押し
●手織箔金押入
●縦27cm 横9cm 高さ10cm
◆申し込み先
〒5200 岐阜県多治見市山下町26 福壽寺内
曹洞宗岐阜県青年会出版部
Tel 〇五七二二三三三〇

インド仏跡巡拝の旅 '88~'89

1 釈尊六大聖地巡拝の旅(8日間).....318,000円より (昭和64年1月-昭和64年3月 毎週水曜出発)	2 釈尊六大聖地巡拝とタージマハールの旅(12日間).....358,000円より (昭和64年1月-昭和64年3月 毎週水曜出発)	3 六大聖地巡拝と仏教美術・ヒマラヤの旅(15日間).....437,000円より (昭和64年1月-昭和64年3月 毎週水曜出発)	4 仏陀の生涯を訪ねて(16日間).....438,000円より (1月30日-3月6日発)	5 南インド(龍樹菩薩)とガンダラーの旅(12日間).....425,000円より (昭和64年1月-昭和64年3月 毎週水曜出発)
--	---	---	---	---

●同様の目的をもった御仲間あるいは教区単位のオリジナルな仏跡巡拝の旅のお便りを致します。先ずお問い合わせ下さい。

アショカツアーズ スペシャル

1 秘境 ブータンとインド仏跡巡拝の旅(12日間).....445,000円 2月14日出発	2 中国少数民族・苗族の里奥里と桂林の旅(9日間).....285,000円 2月19日出発	3 中国仏教美術探訪(10日間).....368,000円 3月1日-3月11日 毎週水曜出発	4 日本初集 夢幻の都楼閣を訪ねて(14日間).....後日発表 8月18日出発
---	---	--	---

アショカツアーズ (株) ビーエス 観光
〒530 大阪市北区中之島3丁目6-32(大阪ビル1F)
TEL 06-444-2221(0) 担当/山下・松浦
〒104 東京都中央区銀座1丁目5-1(第3太陽ビル)
TEL 03-563-2691(0) 担当/花嶋・水野